

団体名	NPO法人 上島ポップコーンの会	活動タイトル	「一人ひとりの安心できる居場所づくり」と「自己実現に向けた学習プログラム」	
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p align="center">■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当事業で実現したいのは「すべての子どもが安心して過ごし個性を伸ばせる社会の実現」である。</p> <p>様々な人に触れて多様な価値観や自身の考え方を認めることで、ひとと違うことを否定せず、みんな違ってみんな良いことが当たり前になり、人と違うからと苦しむ子どもがなくなる社会を作りたい。そして自身の価値を認められる安心できる場所で、自身の個性を磨きながら自己実現を叶えられる環境をすべての子どもに用意できる基盤を作りたい。</p>		<p>メンタルサポート 学習支援</p> <p>中長期の目標や「こうなりたい！」を聞き取り、そのためにできる事を行う。写真は動画視聴や解説をしながら通信制高校の試験対策を行っている。</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>社会的役割（ミッション）は少数派な価値観や特性を持つ子どもたちにも安心できる居場所を提供すること。そしてすべての子どもが自身の価値観を大切に、なりたい自分になれる機会を与えることとした。</p> <p>そのため以下のような取組を行う。</p> <p>①不登校の児童生徒などに、スタッフや不登校経験者・専門家の面談や対話を重ねることで、本人が信頼関係を構築し安心できる居場所を構築していく。</p> <p>②様々な価値観を持つ同世代や大人との交流を経て多様な価値観を認め合い、自身の考え方をさらに深堀する経験を提供する。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：プログラムの作成や広報業務を担当できるコアスタッフが複数名在籍し、事業の安定化を図ることができる。より多くの悩みに寄り添い対応できる連携先の専門家が多くのいる。 ●望ましい物的資源：事業に活用できるスペース・材料を提供していただける個人・企業との連携し、低コストでのプログラム企画・実行することが可能である。 ●望ましい活動資金：誰もが無理をせず継続可能な寄付やサービス負担を担っている状態である。 ●望ましい情報：都心部などの先端事例や動向についての情報を手に入れることができる。地域で活用できる資源を必要な時に使えるための情報網がある 			
<p align="center">■ 活動報告</p>			<p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>活動の広報を大きく行わなかったが、学校・保護者のネットワークなどから利用する児童生徒は予想以上にすぐに集める事ができた。活動内容についてはイベントや日々の活動の工夫が足りず自己実現に向けた取組を十分に行うまでに至らなかったが、安心できる居場所作りは納得のいく活動ができた。活動についても本人や保護者の意向をくみ取りながら、伴走者として本人の興味や悩みに寄り添えたと感じている。</p> <p>外部講師や外に出る活動については本人・保護者ともに前向きに取り組むことは難しかったが、少数でボランティアに参加したり、知っている人が講師だったため外部講師の講座に参加することができた。</p> <p>後半の活動では、学校や専門機関や地域と連携を強めることができた。とくに学級担任が当会の活動で生徒と面談を行う、地域の学童に生徒がボランティアで参加するなど不登校に悩む本人・保護者を多角的に支援出来る体制の地盤作り貢献できたと感じている。</p>			<p>安心できる居場所作りについては利用している生徒全員が継続して利用し目標を達成できた。一方で、来て30分位泣いている生徒や無気力で寝てしまう生徒、反抗する生徒などもおり、心理状態の波が大きく計画的に予定を組むことが困難で、自己実現にむけたワクワク会議や放課後教室は面談の中で合併される形となった。</p> <p>ただ、日常の話の中で好きな事や得意な事・興味を持っていることを聞き出し、それを活動反映できたおかげで、PCスキルの一環として事務仕事の手伝いを申し出てくれたり、当会の従業員に向けた料理レシピ本を自主的に作成してくれたり、自分の得意や興味のあることを自主的に発信することができた。</p> <p>今年度に入ってからは弓削中学校や今治の思春期外来専門の看護師（現NPO法人を設立し当町の不登校支援のサポートを行っていただいている）や教育委員会の連携を強めることに注力し、当会事務所へ担任の先生をお招きし面談するなど、児童生徒の支援を周りに繋げる活動を行うことができた。</p>	
<p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<p>○不登校に悩む児童生徒・保護者との接し方・・・不登校になった原因にスポットをあてるのではなく、現在の困りごとがなんなのか？それを解消する方法は何なのか？を時間をかけて一緒に探していく。その前提となるのはまず本人との信頼関係を結ぶこと、など支援する上で大切なスタンスや技術が得られた。</p> <p>○認識を揃える為のミーティング運営・・・保護者・学校・当会・専門機関や当会がそれぞれ単独で児童生徒をサポートを完遂することはできない。それぞれの専門性や強みを組み合わせることで支援を行っていく重要性を感じるが、そこには認識や支援方針を共有しある程度方向性を統一させる必要性を感じた。その中で他機関とのファシリテーションを行いながら必要な支援を模索するノウハウを得られた。</p> <p>○学校や専門機関との繋がりから得られたノウハウ・・・不登校に悩む児童生徒の1つの居場所だけでなく、学校や専門機関と連携しながら支援の方向性を検討・提案したり協働する経験を得られた。</p>			<p>不登校でも社会との接点を最低限確保し、興味の探求により学びを楽しめる活動を行った。加えて学校や外部機関と連携を図り学校に行けない・行きづらい子どもに対する多面的な支援の地盤を作る事に加担できたが、学校に行けなくても本人や保護者が安心できるサポート体制の構築・子どもたちが活躍し自信をもって自己実現に向けて歩める活動はまだ十分ではないと感じる。</p> <p>1年間の活動で、不登校となった事で生じる本人・家族そして支える人の不安や負担を広く実感した。1つの会の活動としてではなく、自治体や学校・外部機関など周りをとりまくあらゆる資源を活用して支援していく重要性・難しさを感じた。</p> <p>また、当会を利用している子どもの中には発達上の特性から社会性や学力面に苦手を持ち、それが原因で不登校となるケースも見られた。発達の特性を早期から理解し、その個性に合わせた支援を行っていく必要性を感じた。</p>	
<p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p align="center">安心できる 居場所の創出</p> <p>を達成しました。</p>
<p align="center">■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>○ほぼ家族としか話さなかった生徒が当会の活動に来て、その日にあった事や悩みを話せるようになった。</p> <p>○将来なりたい職業を見つける事ができて学習に前向きになった。</p> <p>○メンタルサポートを継続し物事を少し前向きに捉える事ができるようになった。</p>	